

夏休み企画 コレクション展

鷗外と仲良くなる方法

教室
で
出
会
う
鷗
外



目次

- 次回展示のお知らせ
夏休み企画 コレクション展
「教室で出会う鷗外—鷗外と仲良くなる方法」
- 名誉館長談
『即興詩人』加賀乙彦
- コラム
「鷗外と遺言状」小泉浩一郎
- 展示会場から
展示報告
特別展「暁の劇場—鷗外が試みた、或る演劇」
- 活動報告
「吟行句会」レポート
- ショップ便り
- 地域情報
これからの催しもの 2014年7月～9月
編集後記

教室で出会う鷗外

鷗外と仲良くする方法

はじめて森鷗外に出会ったのは国語の教科書だった、という人はとても多いのではないのでしょうか？

それもそのはず、教科書*に掲載された鷗外作品は実に30作以上、掲載回数150回近くにおよぶ作品もあります。この展覧会では、これまで教科書に掲載された作品を、掲載数の多い順にランキングして発表します！さらに、上位にランキングした4作品を、記念館ならではの展示品で、教科書とは違った角度から紹介します。

『舞姫』はドイツの青春の思い出？『山椒大夫』は違うタイトルで読んだことがあった？など、鷗外作品を大解剖！作品をより楽しむための「ヒント」が満載です。授業だけではわからない、教科書だけでは見えてこない作品の魅力を探しに来てください。鷗外作品を読んだけど難しかった人も、一度も読んだことがない人も、きつと鷗外と仲良くなれるでしょう。

本展覧会で紹介した作品は、本郷図書館特設コーナーで借りて読むことができます。また、会期中は小中学生を対象に関連クイズを開催。正解者にはオリジナルステーションナリーをプレゼントします！
*本展覧会では戦後(昭和24年)以降発行の教科書を対象としています。

○紹介する作品

『舞姫』—こんなに違う！原稿読み比べ／『山椒大夫』—演じられた「安寿と厨子王」／『高瀬舟』—兄と弟の物語／『寒山拾得』—娘の質問にどう答える？

名誉館長談—鷗外の小説の中で好きな作品について

『即興詩人』

鷗外は、初期の雅文体から始まって、実にさまざまな文体で表現し、その優秀は限りなき多様性で私を幻惑させる。これをどれが好きかと問いなおしても、せんないことで、異なった文体がどれも、異常な妙味を発して、優秀を定めることが、まことに難しい。つまり、どの文章にも、それ相応のよさがあり、優秀付けがたしとなるほかはない。もっとも最初に読んで、素晴らしいと思ったものが、後記の口語文の簡潔さに惹かれるということもあるし、文語文の美文にその語彙の多様さに惹かれて限りないという経験も常に存在する。

けれども、鷗外を読みだしていつもその原点に返る新鮮な思いをすることは、『即興詩人』をおいてほかにないのが、私の好みである。古典や現代文のどちらにも見えない、超美文として私はこの『森林太郎訳』を愛してやまない。つまり何度読んでも飽きが来ず文章のあふれるように豊かな表現力に独自の味わいを覚える文章は、この訳文をおいてほかにないのだ。

最初の一行からずっと引き込まれる。後を読まずにすすむことができる。噴井とあらば、美しき噴井と響くこの文章の勢いの冴えに乗り、いつしか尖帽僧に「カッパチノ」のルビが滑りこんでくる。この文章はルビなしには読めない。まこと芭蕉風の表記、漢字、ひらがな、カタカナを自在にもちいるところに文章の特色がある。「いとすぎ(チプレツソウ)」の木二株とあれば、それが三株であったはならぬ決定的な文章として読めるのだ。



ビールジョッキ
1886(明治19年)



〔写真右から〕

杏奴時間割表 1919(大正8)年頃
ドレスデンにて 1886(明治19)年
ミュンヘン 上田敬筆森鷗外宛絵はがき
1908(明治41)年3月10日
『美奈和集』1892(明治25)年 春陽堂

会期 2014年6月27日(金)―9月7日(日)
※会期中の休館日 7月22日(火)、8月26日(火)
会場 文京区立森鷗外記念館 展示室2
開館時間 10時～18時(最終入館は17時半)
※毎週金曜日は20時まで(最終入館は19時半)
観覧料 一般300円(20名以上の団体：240円)
中学生以下、障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料

期間中イベントのお知らせ

朗読会「山椒大夫」を読む

講師 金田留奈氏(語り手)
日時 8月23日(土) 14時～15時半
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
定員 50名(事前申込制)
料金 500円(観覧料込・中学生以下無料)
申込締切 8月9日(土) 必着
関連講演会

「鷗外の声に耳をすませて」

講師 紅野謙介氏
(日本大学文学部国文学科教授)
日時 8月24日(日) 14時～15時半
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
定員 50名(事前申込制)
料金 無料
申込締切 8月10日(日) 必着

ギャラリートーク

当館学芸員が展示解説を行います。
7月2日、16日、8月6日(いずれも水曜日)
各回14時(30分程度)
申込不要。展示観覧券が必要です。

紙芝居で出会う森鷗外

展示中の紙芝居「山椒大夫」が展示ケースを飛び出す?! 展示室2で紙芝居師スズキスズさんによる鷗外の世界をお楽しみください。
7月30日、8月20日(いずれも水曜日)
各回14時(30分程度)
申込不要。展示観覧券が必要です。

7月9日は鷗外の命日(鷗外忌)です。当館では毎年7月に一カ月間限定で、鷗外の遺言書のオリジナルを展示します。
鷗外忌当日に展覧会を観覧された方には、遺言の一節が書かれた当館オリジナルのしおりをプレゼントします。



若き日、ヨーロッパ留学の最初のヴァカンスに、私はローマに一人で行き、終着駅の傍の、ピアツツア、バルベリーニの噴井を見てから歩いて尖帽僧教会にしゃれこうべの大群を見たのだった。鷗外の文章、実際の欄外よりも存在感があった。高位の僧の襦袢は胸をも手足をもそろえていて、褐色の尖帽は歳月に汚れてそれなりの威厳を備えていた。ローマの旅はその後、数え切れぬほどおこなってきたが、この襦袢寺をまず見て死者に敬意を示すのが習いになったのは、『即興詩人』のお蔭である。そして、いつもガイドブックとして春陽堂の『即興詩人』が私のポケットにいられたのだ。初版本がポロポロになると古本屋で別版を買う。最後に残ったのは大正9年の16版であった。

ダンテの地獄門の文章も、私は鷗外の童謡風のが好きだ。あの軽やかな文章の地獄が好きなのだ。したがって、ダンテ嫌いのハッバス、ダアデアという教師が大嫌いだ。

私は若いときにフランスに留学し、ヴァカンスには好んでイタリアに旅をした。医師として働きだしてからは、おんぼろルノーになり、さらに年をとると、レンタカーに乗るようになったが、イタリアの旅の友は、かならず春陽堂の『即興詩人』ときまっていた。

もし、『即興詩人』のガイドがなかったら、私のイタリアは、ローマは、まったく変わったものになったろうと思う。

*『即興詩人』の主人公アントニオが通う学校の教師。

鷗外と遺言状

小泉浩一郎

(文京区立森鷗外記念館運営協議会会長・東海大学名誉教授)

鷗外の生について考えることは、鷗外の遺言状について考えることであり、その逆も又真である。二つの命題をめぐるとの可逆的な関係の真実性が、今なおそのリアリティを保ち続けているとすれば、与えられた拙文の主題は、限りなく重く、その要求に最小限答えることすら難しく思われる。しかし、引き受けた以上、回避ばかりしていることは許されないだろう。そこで我儘勝手な近道を行くことをお許し願いたい。

私は元来、次のような思い込みを持っている。即ち鷗外の文壇的処女作で、日本近代文学史に新しい出発点を記した『舞姫』(明二三・一、「国民之友」、明治天皇制を支える神話的虚構性を白日の下に曝した五条秀麿物第一作「かのやうに」(明四五・一、「中央公論」、鷗外が死の三日前、生涯にわたる親友賀古鶴所に口授筆記させた鷗外最後の「遺言状」(大一一・七・六)——この三者をトライアングルとして鷗外の生と文学をめぐるとの全体像を構築した鷗外論でなければ、鷗外の精神の全体像を必要かつ十分な形で捉えることは不可能であるという余りにもかたくなな思い込みである。

かたくなではあるが、この思い込みは鷗外の「遺言状」の構造にはよく見合っている。とくとも私には思われる。遺言状の全文は写真にゆずるとして、そこで鷗外は「死ハ一切ヲ打テ切ル重大事件ナリ奈何ナル官権(憲)威力ト雖此ニ反抗スル事ヲ得スト信ス」とした上で「宮内省陸軍皆縁故アレドモ生死ノ別ル、瞬間アラユル外形的取扱ヒヲ辞ス」「宮内省陸軍ノ榮典ハ絶対ニ取りヤメテ請フ」と「宮内省陸軍」の二者を繰り返して否定している。「外形的取扱ヒ」や「榮典」の語は、それこそ外形的措辞に過ぎず、「遺言状」の本意は、それらの主体である「宮内省陸軍」に向けられている。そして「陸軍」は、『舞姫』の主人公太田豊太郎がその故国日本への帰還に際して可憐な舞姫エリス放棄を彼に迫ってエリスを「生ける屍」と化した当の日本的現実そのものであり(作中には直接所出しないが)、「宮内省」は、「かのやうに」の主人公にして若き歴史学者五条秀麿に、ドイツの哲学者ハンス・フアイヒンガーの「かのやうに」の哲学の援用を介しての「神話」と「歴史」の弁別による国史追求の最後の試みの不可能性を認識させたもう一つの日本の現実そのものであった。あえて言えば、鷗外はその最後の「遺言状」において、彼の生涯を束縛してきた二つの根源的な日本の現実を「宮内省」「陸軍」という語に要約し、それら日本の根源的な現実から自己を析出して死ぬことを決んだのである。

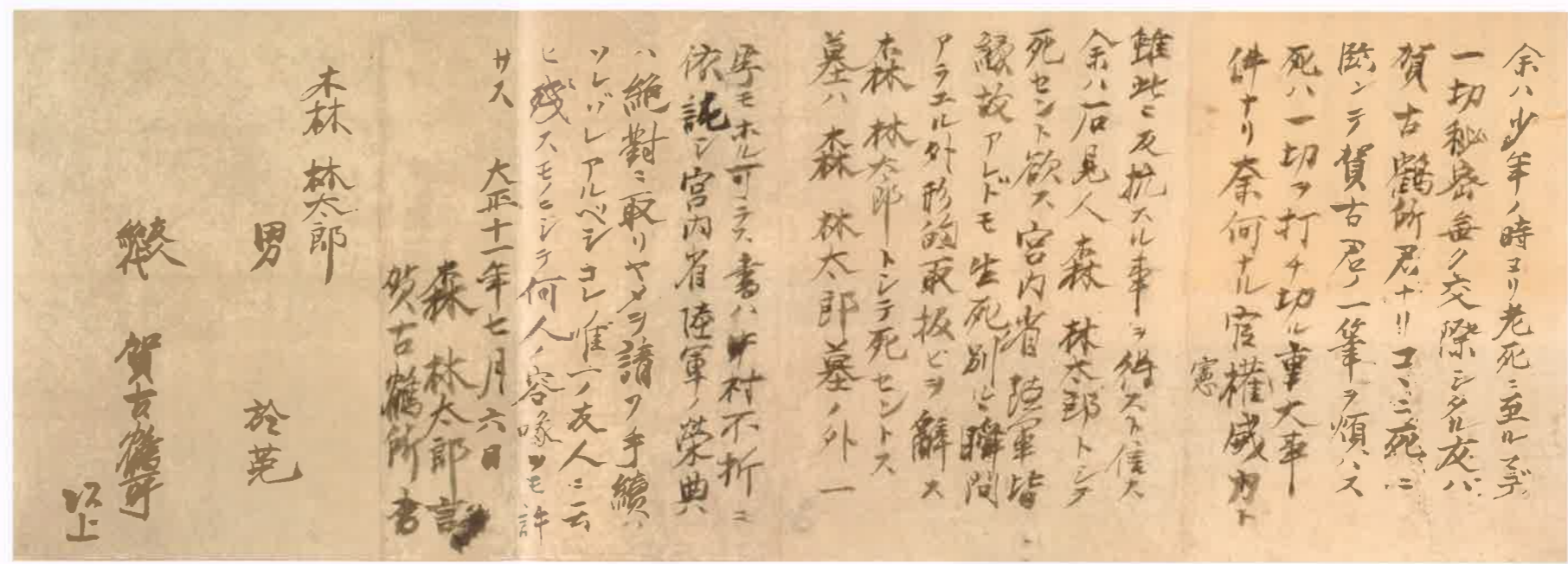
そのようにして析出された鷗外の「真の我」(『舞姫』を、彼自身は「遺言状」で「石見人森林太郎」と呼び、又単に「森林太郎」とも呼んでいる。二者は同意であり、とすれば「石見人」に格別の意味があるとも思われない。鷗外は、ただ単に「宮内省陸軍」の語によって総称し得る近代日本の根源的現実と、合理主義に立脚した彼自身の「真の我」とを距てる最早架橋することのできない距離を「冷眼に」(『本家分家』)見据え続けることによって、合理主義を骨頂とする自己の精神の存在証明を、「遺言」という形を纏った文学テクストとしてこの世に遺すことを選んだに違いない、と私には思われてならない。「遺言状」は鷗外最後の文学的創造行為であったのである。

遺言状の語にあえてカッコ() を付した所以であり、文学テクストとしての鷗外最後の「遺言状」解読の試みは、まだ始まったばかりであると云ってもよい。

遺言書 森林太郎口述、賀古鶴所筆記

大正11年7月6日付

(200155)



余ハ少年ノ時ヨリ老死ニ至ルマデ一切秘密無ク交際シタル友ハ賀古鶴所君ナリコ、二死ニ臨ンテ賀古君ノ一筆ヲ煩ハス死ハ一切ヲ打テ切ル重大事件ナリ奈何ナル官権威力ト

雖此ニ反抗スル事ヲ得スト信ス余ハ石見人森林太郎トシテ死セント欲ス宮内省陸軍皆縁故アレドモ生死別ル、瞬間アラユル外形的取扱ヒヲ辞ス森林太郎トシテ死セントス墓ハ森林太郎墓ノ外一

字モホル可ラス書ハ中村不折ニ依託シ宮内省陸軍ノ榮典ハ絶対ニ取りヤメテ請フ手續ハソレゾレアルベシコレ唯一ノ友人ニ云ヒ残スモノニシテ何人ノ容喙ヲモ許サス 大正十一年七月六日 森林太郎言 賀古鶴所筆記

木林 太郎 男 於菟 賀古鶴所 以上

【翻刻】
余ハ少年ノ時ヨリ老死ニ至ルマデ一切秘密無ク交際シタル友ハ賀古鶴所君ナリコ、二死ニ臨ンテ賀古君ノ一筆ヲ煩ハス死ハ一切ヲ打テ切ル重大事件ナリ奈何ナル官権威力ト

雖此ニ反抗スル事ヲ得スト信ス余ハ石見人森林太郎トシテ死セント欲ス宮内省陸軍皆縁故アレドモ生死別ル、瞬間アラユル外形的取扱ヒヲ辞ス森林太郎トシテ死セントス墓ハ森林太郎墓ノ外一字モホル可ラス書ハ中村不折ニ依託シ宮内省陸軍ノ榮典ハ絶対ニ取りヤメテ請フ手續ハソレゾレアルベシコレ唯一ノ友人ニ云ヒ残スモノニシテ何人ノ容喙ヲモ許サス 大正十一年七月六日

森林太郎 男 於菟 賀古鶴所 以上
友人 賀古鶴所 総代



かこつると 賀古鶴所 安政2(昭和6) (1855-1931)

陸軍軍医・耳鼻科医。東京大学の同窓生で鷗外の終生の友。『キタ・セクスアリス』の古賀、『舞姫』の相澤謙吉のモデルといわれる。東京大学で衛生学を、渡欧して耳鼻咽喉学を修め、神田小川町で開業。詩歌を嗜み、山縣有朋の歌会(常磐会)の幹事を鷗外と務め、観潮楼歌会にも参加。鷗外の生涯に寄り添い、その最期を見届けた。(肖像写真 300056)

デスマスク

(100034)

ブロンズ製で、顎下に鷗外の名前と生没年「R. Mori 1862-1922」が刻まれています。新海竹太郎が作製し、『新海竹太郎伝』(昭和56年刊)に「大正11年(中略)7月9日森鷗外が歿した。即日家人の依頼により其の死面をとった。」と記載があります。長男・於菟が赴任地の台湾で保管していました。戦後、現地に遺されたままでしたが、鷗外の33回忌の前年の昭和28年9月に無事送還されました。



鷗外は3種の遺言書を遺しており、そのうちの3番目です。鷗外の口述、賀古鶴所の筆記によって作成されました。「森林太郎言 賀古鶴所書」の署名、そして鷗外の拇印があります。「石見人森林太郎トシテ死セント欲ス」という思い、没後の「外形的取扱ヒ」の辞退、さらに墓石の刻銘についての希望を「森林太郎墓ノ外一字モホル可ラス書ハ中村不折ニ依託」と述べています。「一切秘密無ク交際シタル友」への信任にはじまり、「唯一ノ友人ニ云ヒ残スモノ」と結ばれ、口をはさまないようにとの言で締められています。鷗外と賀古の生涯にわたる友情と信頼関係がうかがえます。遺言書作成から3日後の大正11年7月9日に鷗外は永眠します。以後、鷗外周辺の人々で、毎年命日に集まり鷗外を追悼する九日会が結成されました。現在は追悼集会の鷗外忌が催されています。

展示報告

特別展

暁の劇場

— 鷗外が試みた、或る演劇

本展覧会では、鷗外生前に上演に至った鷗外戯曲12作品を辿りながら、鷗外の演劇活動や演劇人との交流を紹介しました。

展示室では、壁面に舞台写真を大きく投影し、演劇の持つ特性や当時の演劇状況を解説する3つの幟（へ）上演に関わる人々（へ）横断的なジャンル（へ）上演された劇場（へ）を天井から下げ、劇場に在るような空間を演出しました。

作品ごとに、あらすじや初出・初演など基本情報を解説するパネルを配し、それぞれのケースには当時の番付やプログラムなどの上演資料を展示して、100年以上前の観客と同じ気持ちで鷗外作品をご覧いただきました。



会期 2014年4月26日(土)～6月22日(日)
会場 展示室1、2

また、両面ガラスのハイケースでは、小山内薫や伊井蓉峰、上山草人、伊原青々園などからの書類類を一同に展示しました。各々の書類を比べてみることで、差出人と鷗外との関係が如実に現れ、演劇界で鷗外がどのような立場だったかを想像することができました。



記念館で、舞台写真や当時の番付、プログラムといった演劇資料と、鷗外の自筆原稿や発表雑誌、交流書簡などの文学資料をまとめて展示するのは、初めての試みでした。演劇活動を通して、鷗外の新たな面を知っていただく機会になったことと思います。

最後になりましたが、本展覧会を開催するにあたり、ご協力賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

◆協力機関
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館／日本俳優協会／演劇出版社／株式会社資生堂
◆撮影 コウ写真工房

展示関連講演会

100年前の演劇と鷗外

100年前の劇界について、当時の音声・映像を交えながら語っていただきました。鷗外と坪内逍遙や、その他の人物交流、鷗外作品を上演した劇団・自由劇場などのほか、今年100周年の宝塚にまでお話がおよぶなど盛りだくさんな内容でした。劇場周遊のような時間で、聴講者も100年前の演劇にすっかり魅せられていました。



日時 5月17日(土)14時～15時半
講師 児玉竜一氏
(早稲田大学教授、早稲田大学演劇博物館副館長)

上演された鷗外—俳優と劇場

鷗外作品に出演した俳優たちが、表現者の立場・目線から鷗外作品をどう捉えたかについてご説明いただきました。

続けて、鷗外作品が上演された新富座、有楽座、帝国劇場について、明治期の劇場の変遷という観点からお話いただきました。開かれた場所から閉ざされた空間へと変わりゆくさまを、当時の様子を描写した文章などから具体的に解説していただきました。鷗外作品をめぐる上演事情が立体的に迫ってくるお話でした。



日時 5月31日(土)14時～15時半
講師 神山彰氏(明治大学教授)
お話をいただきました。

活動報告

「吟行句会」

鷗外ゆかりの坂を訪ねて

実施レポート

4月19日、さわやかな昼下がり、若手俳人佐藤文香さんとともに、吟行句会を行いました。記念館から湯島天神までの約1時間半の道のりを、鷗外ゆかりの場所をめぐりながら歩いて句作し、各自3句(うち1句は題詠)を提出して句会を楽しむプログラムです。

記念館を出た一行は、夏目漱石の旧居跡・通称「猫の家」(ここはかつて鷗外が暮らした場所でもあります)、つじ祭りで賑わう根津神社へと歩を進めました。根津神社では15分の句作タイムが設けられ、参加者は境内の思い思いの場所に散り、真剣な面持ちで句作に励んでいました。その後、鷗外の小説『青年』にも登場する新坂(通称S坂)やテモテ教会を通り、暗闇坂を抜けて、小説『雁』の舞台となった無縁坂へ。途中佐藤さんより本日のお題「遠足」の発表とともに、句へのお題の取り込み方などアドバイスがありました。道々に咲いている花や風景の

こと、俳句の経験や、鷗外に関すること、そして遠足の思い出など、初対面でも年齢も立場も異なる人同士がなごやかに会話を重ねながら、一行は最後の目的地湯島天神に到着。ここで2度目の句作タイムの後、電車で記念館に戻り、自由詠2句、題詠1句を出句して、いよいよ句会です。

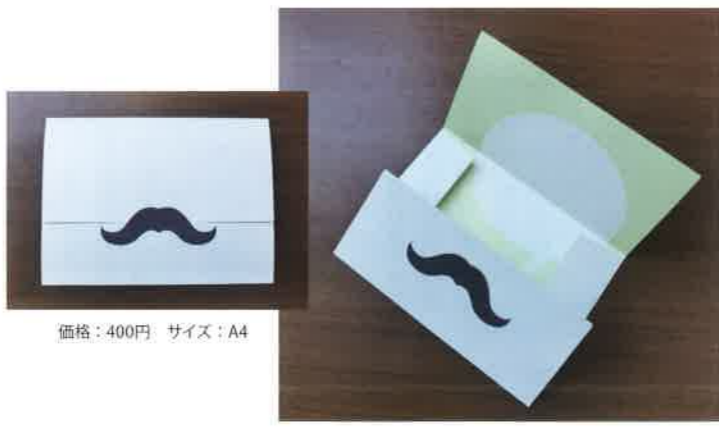
作者名がふせられた全作品の中から、各自並選2句と特選1句を選ぶ「選句」、得点が入った句を佐藤さんが読み上げ、選者にその理由を問う「披講」と句会は進んでいきました。

根津神社のお祭りの様子、貼り紙の文言や民家の窓から外を見ていたぬいぐるみ、吟行中のちよっとしたハプニング、湯島天神で遭遇した結婚式等々、様々な光景を詠みこんだ作品が披露され、共感や驚嘆の中、句会は大変盛り上がりしました。時間や風景経験の共有をしたのちに、各自の感性とアプローチで17音で表現した世界に触れられる吟行句会は、他者の想いに寄り添える貴重な機会であったようです。

この日最高得点を獲得したのは大藤聖菜さんの作品「復活祭家族写真は残すべし」。参加者それぞれにそれぞれの形で響いた1句でした。

ショップ便り

ミュージアムショップに4月から新しく加わった当館オリジナルの「ヒゲ紙ファイル」を紹介します。



価格：400円 サイズ：A4

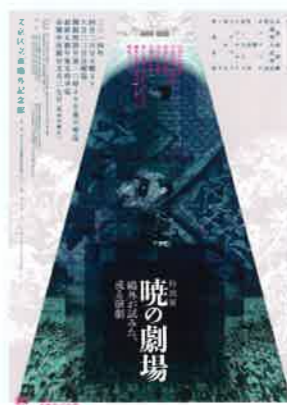
ポイントはファイルの中でひととき目立っているヒゲ。このヒゲが留め具の代わりになっているので、ふた部分を引っ掛ければ中身がバラバラになりません。

また、硬めの紙を使用していることで中身が折れにくく、大切な書類を持ち歩くときに便利です。中を開くとちよっとした遊び心が！吹き出しにメッセージが書き込めるようになっています。

自分用にも、プレゼントにもお勧めです。メッセージを加えて贈れば特別な贈り物に。クリアファイルに飽きてしまった方、紙ファイルを是非お試しください。

広報物の紹介

鷗外の演劇活動は、新しい演劇を模索している時代—いわゆる新劇が開く前—夜明け前—暁にありました。展覧会ポスター・チラシでは、この混沌としていた時代を、当時の資料写真を幾重にも重ねたデザインと鮮やかな色彩で、大胆に表現しています。いつもの鷗外とは違う趣きに驚かれた方も多かったようです。



図録巻末には「鷗外演劇年表」と「鷗外演劇評論集」を所収。これで860円はお得!

地域情報

根津神社例大祭

2014年9月20日(土)、21日(日) 11時～20時

記念館からほど近い根津神社は、小説『青年』にも登場します。

1706年に造営された権現造りの社殿が現存しており、国の重要文化財に指定されています。毎年秋に開催される例大祭は、6代将軍・徳川家宣が1714年に江戸全町から山車を出し、壮大な祭礼を行ったことから始まりました。山王祭、神田祭とあわせて江戸の三大祭と言われています。期間中は境内に多くの露店が出店され、今年は4年に一度の神輿渡御が行われます。神楽殿では、浦安舞と江戸里神楽の三座ノ舞の奉納も行われる予定です。当館にお越しの際に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。




写真提供：根津神社

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日(※)必着でお申込み下さい。申込詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせ下さい。(応募多数の場合抽選とさせていただきます。)

7月9日(水) 10:00～17:30

◎ 鷗外忌記念行事

鷗外の命日(7月9日)に展覧会を観覧された方に、オリジナルのしおりをプレゼントします。



***7月5日(土)必着**

7月20日(日) 11:00～12:30

鷗外講座応用編 第3回
鷗外と美術 1

講師：倉林靖氏(美術評論家)
料 金：無料

***7月12日(土)必着**

7月27日(日) 11:00～12:30

鷗外講座応用編 第4回
鷗外と美術 2

講師：倉林靖氏(美術評論家)
料 金：無料

***7月19日(土)必着**

8月2日(土) 13:00～15:00

文の京ワークショップ 親子プログラム
お話をつくってみよう

講師：雪舟えま氏(歌人)
料 金：大人500円・中学生以下300円
(材料費・観覧料込)

館内で見つけたキーワードをもとに、即興でお話をつくるプログラムです。講師は短歌・小説・絵本などを発表している雪舟えまさんです。世界に一つ、自分たちだけのお話をつくってみませんか? つくったお話はプリントして持ち帰ることができます。

***7月23日(水)必着**

8月6日(水) 14:00～16:00

文の京ワークショップ 親子向け推奨
カリグラフィーでコンサティナーカード(アコーディオン式豆本)をつくろう



講師：池谷めぐみ氏(カリグラファー・MAKIKOオフィス)
料 金：大人800円・中学生以下500円
(カリグラフィーマーカー1本付・観覧料込)

アルファベットを美しく書く技法カリグラフィーで文字を書き、アコーディオン式の豆本コンサティナーカードに仕立てていきます。

***9月5日(金)必着**

9月19日(金) 18:00～20:00

文の京ワークショップ
歌会 at モリキネカフェ

講師：東直子氏(歌人)
料 金：800円(お茶付、観覧料込)

カフェでお茶を飲みながら歌会を楽しみます。



***8月9日(土)必着**

8月23日(土) 14:00～15:30

朗読会『山椒大夫』を読む

朗 読：金田瑠奈氏(語り手)
料 金：500円(観覧料込・中学生以下無料)

***8月10日(日)必着**

8月24日(日) 14:00～15:30

展示関連講演会
鷗外の声に耳をすませて

講師：紅野謙介氏(日本大学文理学部国文学科教授)
料 金：無料

***9月6日(土)必着**

9月20日(土) 11:00～12:30

鷗外講座応用編 第5回 鷗外と明治・大正の歌舞伎 1

講師：寺田詩麻氏(早稲田大学演劇博物館招聘研究員)
料 金：無料

***9月13日(土)必着**

9月27日(土) 11:00～12:30

鷗外講座応用編 第6回 鷗外と明治・大正の歌舞伎 2

講師：寺田詩麻氏(早稲田大学演劇博物館招聘研究員)
料 金：無料

編集後記

4月26日、特別展「暁の劇場」鷗外が試みた、或る演劇」が開幕しました。

当館では、年間4回のコレクション展と、2回の特別展を開催しています。特別展は、他館所蔵資料の借用や図録の発行など、コレクション展よりも多くの工程があり、準備も展示替作業も緊張の連続です。図録編集などで深夜まで業務が及ぶこともしばしば。とても大変な作業ですが、館全体がじわじわとひとつの展覧会に染まっていく様子が感じられるのは、展示業務の醍醐味です。

今年の夏は冷夏との予報ですが、6月始めには30度を超え、年々暑くなっている気がする日本の夏。6月から9月までの毎週金曜日は延長開館を行います。展示室は20時まで、カフェは19時までのオープンです。涼しい時間帯に快適な観賞をお楽しみください。

また、当館の展示室は資料保護のため通年22度の室温を保っています。外気との温度差で展示室内が寒く感じられることがありますので、ご来館の際は何かはおるものをご持参ください。

【交通案内】

- 電車をご利用の場合
 - ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
 - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
 - ・都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分
 - バスをご利用の場合
 - ・都バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
 - ・都バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30)
6月～9月の毎週金曜日は20:00まで開館 (最終入館は19:30)
休 館 日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)、
年未年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等

